

## 二 挨拶

勝央美術文学館 館長 神田 寿 則

当館の顕彰する、作家 岡本綺堂と、その養嗣子で岡山県勝央町出身の出版人 岡本経一。この父子にちなんだ「こども怪談コンクール」ふちぶちこわい話―僕らは最高に怖い話を作ってしまったかもしれない―は、今年第二回を迎えました。

岡本綺堂は、新歌舞伎を代表する劇作家で、瑞々しく江戸を描いた推理小説「半七捕物帳」等で広く知られています。しかし綺堂は、数多くの怪談作品を執筆し、現代でも「モダンホラーの先駆け」と評される怪奇小説の名手でもあります。このコンクールは、昨年の岡本綺堂生誕一五〇年記念展「奇譚の神様」の開催を機に、かつて岡本経一が尽力し設置された「岡本綺堂賞」の志を引き継ぐべく、子ども時代から怪奇に触れ「怪談」を心から愛した綺堂になぞらえ、全国の小中学生の皆様から「こわい話」を募るコンクールとして創設しました。

第二回となる本年は、全国から一〇一人の子どもたちに作品をお寄せいただきました。この作品集では、小学生の部・中学生の部において、審査を重ね選出された入賞作品一八点を集録しております。子どもたちの溢れる想像力や獨創性、そして彼らが紡ぐ背筋が寒くなるような恐怖を味わっていただけだと思います。最後になりましたが、ご応募いただきました皆様をはじめ、コンクールにお力添えをいただいた小・中学校の先生方や、ご家族の皆様、審査にご協力いただいた本町教育相談員の皆様、最終審査をご担当いただきました東雅夫様に厚く御礼申し上げます。